

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立いずも保育園		
事業所連絡先	〒	144-0045	
	所在地	東京都大田区南六郷1-10-3-101	
	TEL	03-3732-0231	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	15日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	15日
訪問調査日	2025年	8月	19日
評価合議日	2025年	9月	2日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一人一人のこどもの人権を考慮し、ありのままの姿を受け止め、健やかに成長していくことを願う 2) 保護者とのよりよい関係を築きながら、専門性をいかした子育て支援を行う 3) 地域の人々や関係機関との連携を図り、児童福祉向上を積極的に進め、家庭支援を行う すべての子育て家庭と地域の子育て力を高めていくことに尽力する <p>（方針）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一人一人の人権を考慮し、ありのままの姿を受け止め、健やかに成長していくことを願い保育していく 2) 情緒が安定し自己を十分に発揮しながら生活、活動できる環境を整え、健全な心身の発達を促す 3) 保護者の声に耳を傾け、思いや家庭状況を理解していくことでよりよい関係を築き、子育てを共に行う 4) 地域の子育て支援の核となり、地域の子育て力を高めていく
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの健やかな成長につながる保育を実践していくために、自身の専門性をいかすことができるよう向上心と意欲をもって業務にあたる。自身を振り返ることを忘れず、自己研鑽に努めながら経験を積み重ねていける職員であってほしい。 ・保護者やこどものおかれている状況や背景、気持ちや考え等を理解する姿勢を忘れず、受けとめながら共に考えていくことができる職員であってほしい。 ・専門性と自身の強みを組織のために発揮し、組織の中の自分の役割に責任をもち、まわりと力をあわせながら園全体で保育をより良いものにしてほしい。 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の存在が子ども達に与える影響に責任感とやりがいを持ち、一人一人の権利や気持ちを大切にしながら誠実に子ども達と向き合っていく。 ・保護者には多様な価値観があることを認識し受けとめたり理解したりする姿勢を持つ。信頼感や安心感のもと共にこどもの成長を願い、子育てを考えていく存在となることができるよう努める。 ・大田区職員としての自覚を忘れず、周囲の様々な方と協力しながら自己の経験や専門性を発揮し、地域の子育て力の向上に取り組んでいく。

調査対象	保育園に通っている園児80世帯101人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	101		
利用者家族総数(世帯)	80		
共通評価項目による調査対象者数	80		
共通評価項目による調査の有効回答者数	60		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	75.0		

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」61.7%、「満足」33.3%の計95.0%であった。

自由意見では、「先生方みなさん温かく子どものことを考えてくださっているのが伝わります。」「子どもが楽しかったと帰ってくるので感謝しています。」「園庭があり生き生きと遊べる。」「給食のお手伝いや昆虫などを育てていていいなと思います。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中15問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	60	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「個人個人の成長を園全体で見守って頂いていると感じます」季節ならではの遊びや経験をいっぱいさせてもらっています」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	58	0	0	2
「はい」の回答は96.7%、「無回答・非該当」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「行事を楽しみに出かけたり保育園から帰ってくると行った場所を教えてください」「子どもたちそれぞれのことをとても良く考えて対応してくれていると思います」という声が寄せられている一方、「もう少し園外での活動もあると子どもも新鮮なのではないかなと感じます」という意見が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	54	5	0	1
「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「普段食べない野菜なども園では食べているのでレシピなど聞いて参考にさせて頂いています」「子どもが美味しいといつも給食を楽しみにしています」という声が寄せられている一方、「ご飯をおかわりしたいそうなので声をかけていただけると助かります」という意見が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	55	3	1	1
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「水分補給も十分にしてくれていて安心です」「プール遊びもとても楽しそう家でプールに連れて行ってあげられなくても保育園に入れるので安心できます」という声が寄せられている一方、「まだ小さくてなかなかお散歩も大変かと思いますができる限り園庭外への散歩もしていただきたいです」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	6	0	4
「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は10.0%、「無回答・非該当」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「柔軟に対応してくれており土曜保育も相談のようになって助かりました」「事情を快く受け入れてくださり助かっています」という声が寄せられている一方、「保育アプリからの連絡でも対応いただけると有り難いです」という意見が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	55	2	1	2
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は3.3%、「いいえ」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「保護者も子どもも安心できる環境づくりをしてくださっていると感じます」「万が一子どもの怪我などあっても安全対策や状況説明をしっかりと頂いています」という声が寄せられている一方、「暗いです」という意見が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	48	10	1	1
「はい」の回答は80.0%、「どちらともいえない」の回答は16.7%、「いいえ」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「平日夕方で助かっています」「1日休みを取らなくても良いように時間の工夫がされていると思います」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	52	5	2	1
「はい」の回答は86.7%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は3.3%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「迎えの際に話したいこともあるのですが保育士さんが常に忙しそうであり話せません」「今まではどんなことでも話しましたが学年が変わってからはあまり話せていません」という意見が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	3	1	1
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「小さい子ども用のトイレしか行かないのですが子どもが裸足で入ってくるのでいつも綺麗にしてあります」「古い建物ですがいつもとても綺麗です」という声が寄せられている一方、「施設が古いためか清潔感はあまり感じられない。またいつも廊下に砂がある」という意見が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	55	3	2	0
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「密かに先生方の子どもの接し方をお手本にさせていただいているのでこれからもぜひ参考にさせていただきたいです」「保護者にも優しく笑顔で接してくれています」という声が寄せられている一方、「子どもに対しての言葉遣いが気になる時があります」という意見が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	58	1	0	1
「はい」の回答は96.7%、「どちらともいえない」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「信頼でき少し子どもに変化があればすぐに教えてくれます」「体調が悪くなった際に事務室で一時的に休ませてくれるのが有難いです」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	46	11	0	3
「はい」の回答は76.7%、「どちらともいえない」の回答は18.3%、「無回答・非該当」の回答は5.0%であった。 自由意見では、「今までにいきかいやいじめがあったとは聞いたことはありませんが職員は信頼できます」「大きい子どもの言い争いは状況により見守り仲立ちなど対応してくれています」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	58	1	0	1
「はい」の回答は96.7%、「どちらともいえない」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「朝ぐずっていても子どもの話をよく聞いて慰めたり落ち着かせてくれているので安心してあずけられます」「どの先生も子どもたちを大切にしてくれているのが良く伝わってきます」という声が寄せられている一方、「気持ちが言えない性格の場合分かってもらえてない時もある」という意見が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	53	3	2	2
「はい」の回答は88.3%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は3.3%、「無回答・非該当」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「先生方を信頼していますのでしっかり守ってくれると思います」という声が寄せられていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	53	3	2	2
「はい」の回答は88.3%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は3.3%、「無回答・非該当」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「保護者会でわかりやすく伝えてくれている」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	56	1	1	2
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は1.7%、「いいえ」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「忙しい時でも時間を作ってください」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	46	11	1	2
「はい」の回答は76.7%、「どちらともいえない」の回答は18.3%、「いいえ」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「経営層がとても気さくで話しやすいので助かっています」「玄関に張り紙があるのでそれでしています」という声が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念を共有し職員と保護者が行動指針を自分事として捉えられるように取り組んでいる 年度当初の職員会議で、部・課・園の各目標を一体的に提示し、その後の個別面談で自分の役割を引き付けて再確認している。理念を「読む」機会にとどめず「自分のミッション」として腹落ちさせるプロセスが設けられている。全体的な計画と重要事項説明書に理念・方針を明記して、職員室に常備するとともに電子ファイルでも共有し判断に迷った際に即座に立ち返れる環境が整っている。会議や打合せではリーダーが「園目標との整合」を問い掛けるなど、理念を意思決定の拠り所にする姿勢が見られ、「行動への結び付き」が実践されている。	
	経営層が理念と目標を共有し、組織的リーダーシップで職員の自発性を高めている 当園では年度当初に全職員へ、職員としての心得や職務規定、職務分担表などを配布し、経営層自らが説明の場を設けることで自身の役割・責任を明示している。さらに、中長期計画、事業計画、全体的な計画を踏まえた「育成面談」や「PT行動計画」を通して、部・課の目標を個々の目標設定に繋げている。経営層は各PTやクラス、係ごとに目的や方向性を示しながら、職員の自発的行動を促進しており、組織全体を統合するリーダーシップが発揮されている。面談や会議で双方向のコミュニケーションを図り、経営層が得た声を計画や環境整備に反映している。	
	重要案件の意思決定プロセスを階層的に整備し、職員と保護者へ透明性高く周知している 当園ではクラス・係・PT等の小集団での検討を出発点とし、リーダー会を経て職員会議で最終決定を図っている。とりわけ、全クラス・パート・フリー等が自クラス会議や係打合せで課題を抽出する、リーダー会で情報を整理・集約し、職員会議で全体合意を得て決定するという一連の流れが定着しており、直近では「延長保育時の保育方法と非常勤職員の育成」について同手順で決定されている。急を要する案件についてもリーダー会で迅速に合意形成を行い、その後の朝礼や職員会議で全職員へ周知しており、スピードとコンプライアンスの両立が図られている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半年・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者や職員、地域の意向や動向を的確に捉え、事業運営に反映している</p> <p>利用者ニーズの把握とフィードバックの面では、行事ごとに実施するアンケートは回答率が高く、集計結果をクラスだより等で迅速に公表している。職員の意向把握の重層化として、日常の打合せで意見を吸い上げ、面談シートで個々の課題を可視化する二段構えは、組織全体の合意形成と個々の成長支援を両立させている。地域ニーズの具体的把握は、公開保育や親子向け事業「わくわくいずも」を通じ、近隣の保育施設や入園前保護者の不安や疑問を質的データとして収集している。</p> <p>利用者・職員・地域のニーズを的確に把握し、課題抽出と運営改善に繋げている</p> <p>上述によるデータは豊富だが、課題抽出のプロセスが口頭共有に留まる場面が見受けられる。例えば「地域の子育て支援」を重点課題とする際、根拠データや優先順位を整理した資料を作成すると、計画立案へよりスムーズに反映させ易くなる。経営視点の導入の面では公費で運営されるからこそ費用対効果や将来投資の視点が重要である。情報収集力を強みとして数値・エビデンスに基づく課題設定、長期視点を取り入れた資源配分の検討やイノベーション創出など、進めてほしい。</p> <p>事業所の理念とビジョンを実現するための計画策定とその着実な実行に期待したい</p> <p>当園では、保育の質向上、防災・危機管理、環境づくり、子育て支援等を主要課題とする3～5年の中・長期計画を策定している。計画と財源の整合性についても、消耗品費などの園独自予算は単年度計画と照合して配分するなど、実効性ある予算編成が行われている。一方、達成度合いを測定する指標については、例えば「保育の質向上」に関しては職員研修受講率や保護者アンケート満足度、「防災・危機管理」では避難訓練の到達時間など、定量的指標を併用すると改善効果の検証が一層明確になる。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

法・規範・倫理の理解と遵守を全職員で推進する組織的な取組みが着実に定着している

当園では年度当初の職員会議で「保育園運営の手引き」「大田区安全保育マニュアル」等を配布・確認し、プライバシーポリシーへの署名を通じて全職員に法・規範・倫理を周知している。さらに「子どもの権利プリント」やポスターを掲示し、視覚的にも意識づけが図られている。セルフチェックリストを用いた振り返りを定期的に行い、園内研修や職員会議でワークや語り合いを継続することで気づきを共有している。中途採用職員や非常勤職員を含めた平準化を図るため、eラーニングや小テスト等による理解度確認を導入すると、周知のばらつきを抑制できる。

子どもの権利を守るため、虐待防止と早期発見・迅速対応体制の実践が評価される

利用者である子どもたちの権利や尊厳を守るために、組織全体で虐待防止対策に取り組んでいる。年度当初から保育方針や大切にすべき「子どもの権利」に関する確認を行い、セルフチェックリストや冊子を活用して共通理解を深め、お互いの保育を見合う機会や職員会議、園内研修による定期的な自己評価と共有を通じて保育の質や日常の関わり方が向上している。これにより、利用者に対して不適切な言動や虐待のリスクが未然に防がれている実績が確認され、組織的な予防策が十分に整えられている。

情報開示と地域連携を軸に、開かれた組織づくりと地域福祉への貢献を推進している

当園は、玄関ホワイトボードや正門前ポストなど多様な手段で園だより、見学会案内、入園申し込みなどの情報を開示し、地域に開かれた組織づくりを推進している。実習生・ボランティア受け入れ時は「実習生のみなさんへ」「ボランティアのみなさんへ」の手引きにより、基本姿勢や留意事項、プライバシー保護を周知・同意取得している。また、在宅子育て家庭向け「わくわくいずも」開催や育児応援券の受け入れ、園庭開放などで地域の福祉ニーズに応えている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>当園は災害・事故・不審者侵入などリスク対応とBCP策定で安全な保育を提供している</p> <p>当園では、事業所が目指すことを阻害する可能性のあるリスクを多角的に洗い出し、影響度と発生可能性を基に優先順位を明確化している。特に「災害」「事故」「不審者侵入」を最上位に位置づけ、保育園防災の手引き、事故防止ガイドブック、大田区安全保育マニュアルなどの各種マニュアルを整備し、年度当初の読み合わせや月次点検、各種訓練・演習を通じて職員全員が対応手順を習得している。また、事業継続計画(BCP)を策定し、平常時から非常時までの行動フローを明示し、保護者、非常勤職員にも周知・参加を促している。</p> <p>リスク洗い出しから対策実施、周知・訓練、事業継続計画の運用の事後分析が期待される</p> <p>事故や感染症発生時におけるけが報告書・事故報告書の作成と要因分析、クラス内及び職員会議での振り返りを通じた再発防止策の立案・共有が行われている。一方、優先順位付けのプロセスや判断根拠を文書化し、定期的に見直す仕組みをより明確化するとともに、「環境・設備改善」「クレーム対応」「人員配置」のリスクに対する対策状況を定量的に評価・検証することが期待される。また、定期的実施している侵入対応訓練に加え送迎時の事故シミュレーション等を通じて、業務継続計画の有効性をより深く検証することで、さらなる安全性の向上が図れる。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリ5の講評

指針に沿った対話型支援で実現する安定した人材確保とキャリア育成体制を築いている

当園は区と一体となった採用・配置システムのもとで安定した人員確保を実施している。人材育成・確保基本計画や自己申告書、職員面談シートを活用し、個々の職員の希望や適性を踏まえた配置を行っている。「大田区保育園人材育成指針」をよりどころに、園長と職員との個別面談を年2回実施し、キャリアデザインシートを活用しながら職員自身の将来像と必要な経験・研修を共有している。質問を通じて職員が自己分析できるよう配慮するなど、対話型の支援が定着している。人材育成・確保基本方針に沿った面談結果を園内研修やOJT計画に反映している

勤務内研修と柔軟シフトで全職員の学びを継続的に保障し組織力を着実に高めている

園内研修や研究保育を勤務時間内で実施する工夫、また外部研修へ参加する際のシフト調整により、常勤・非常勤を問わず全ての職員の学びの機会が確保されている。保育園への自主研修情報の掲示や、経験・職層に応じて園長が個別に声掛けを行う姿勢は、職員の主体的な学習意欲を喚起するとともに、組織が定めるサービス水準を安定的に維持する基盤となっている。直近では看護師によるCPR訓練などが行われている。外部研修後に必ず報告会を行い、学びと今後の取り組みをチーム全体で共有している。

傾聴と透明な評価で学び続ける組織を築きサービス品質の持続的向上を実現させている

当園は評価・処遇の透明性、就業状況の細やかな把握、対話を重視した目標管理、そして傾聴文化の醸成という4つの柱をバランス良く運用している。研修参加後の報告書作成と定期的な職員会議での発表、さらに報告書の回覧が行われている。また、朝礼や職員会議、園内研修などで日々の気づきを持ち寄り、改善策を迅速に全体周知している。研修のアウトプット共有、意見交換の仕組み、チーム運営の工夫が一体となり、組織学習サイクルを確立させている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は人権に対する理解を深めることを重点課題と捉え、重点目標に6回の園内研修を通して、職員同士で語り合うことを掲げている。昨年度の重点施策として職員会議や園内研修の中で6回のワークに取り組んでいる。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、園内研修PTが中心になりながらワークを企画し実行することができた。ワークのテーマや内容、進め方等について、ねらいやイメージを共有できるよう話し合いながら進めることができた。このことが上手くいったことが達成に繋がったと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、職員同士で語り合い学び合う機会の積み重ねを継続し、保育の実践に結びつけていくことに発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度、当園では「人権に対する理解の深化」を重点課題として掲げ、6回の園内研修や職員会議を通して、職員同士が真剣に語り合い、共に学ぶ機会を確保する取組が行われた。初めは、各職員が人権の意義やその実践方法に対してどのように考えているのか、意見交換を重ねることが目的として設定された。

その後、園内研修においては、研修の企画・実行を担当するチームが中心となり、ワークショップのテーマや内容、進め方について事前に十分な話し合いを重ね、全員でねらいやイメージを共有することで、研修がより効果的なものとなるよう工夫されている。この丁寧な準備と職員間の協働が、実際に6回のワークを予定通り進行させ、重点目標の100%達成へとつながっていった。

通常の研修運営では意見の相違やテーマの難解さから混乱が生じがちなところ、この取組では、PTリーダーが中心になって話し合いをリードし、各メンバーの視点を融合させながら進めた点が大きな転換点となった。全員が意見を出し合い、相互理解を深めた結果、単なる数値目標の達成に留まらず、実際の保育現場での人権教育の実践に向けた土台がしっかりと築かれている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は園庭環境の見直しと改善を重点課題と捉え、重点目標に園庭整備を毎月行うことを掲げている。昨年度の重点施策として環境PTが主となり、日程と整備箇所や内容を決め、他の職員も協力しながら整備を行うことに取り組んでいる。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、毎回、重点箇所や内容をPTメンバーが検討しリードすることで、短時間内に協力して園庭整備を行うことができたことが、目標達成に繋がったことと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、検討事項についての継続的な改善と、子どもが主体的に遊べる環境・保育士の配慮等を反映させたルールブックの改定を進めていくことに発展させている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度は、園庭環境の見直しと改善を重点課題と捉え、毎月の園庭整備を重点目標として掲げ、職員一丸となって取り組んできた。特に、環境PTが中心となり、整備の日程、箇所、内容を事前に決定する体制を整え、全員で協力して実施したことが、計画の成功に大きく寄与された。重点施策の実施において、環境PTメンバーが率先して検討・リードし、毎回の整備が短時間で効率的に遂行された点が非常に評価できる。各回、重点箇所や内容を明確に設定し、それに基づいて職員同士が役割分担と連携を密に行った結果、掲げた目標が100%達成された。こうしたプロセスは、事前準備とチームワークの優れた融合がもたらす成果であり、組織の強みとして今後も活かせる貴重な経験といえる。全体として、昨年度の園庭整備に関する活動は、明確な目標設定と効果的なチーム運営により、成功裏に終了した。この成果を基盤とし、今後は子どもたちがより活発に遊べる環境づくりと、保育士が安心して業務に取り組める支援体制の充実という、次のステップの目標に向け継続的な改善を重ねていくことが望まれる。今回の成功体験と改善点を十分に活かし、さらなる質向上が達成されることを期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>保護者や利用希望者の多様なニーズに応えるために、情報提供の工夫が徹底されている</p> <p>大田区ホームページを基軸に、園概要・空き状況・見学会日程等を網羅的に公開しており、まずウェブ検索に馴染みのある保護者のアクセス性は高いと評価できる。さらに正門掲示や近隣児童館・図書館へのポスター掲示といったオフライン媒体を併用することで、インターネット環境が整わない世帯や通り掛かりの保護者にも情報が届く工夫がなされている。年間予定表の掲示や「わくわくいずもだより」により、園での実際の活動イメージを視覚的に示している。</p> <p>見学時には子どもの実際の姿を見せもらうことで言語の壁を越えた理解を促進している</p> <p>見学会の定期開催に加え、日程外の希望にも柔軟に応じ、電話受け付け簿や見学マニュアルを整備することで誰が窓口に立っても同水準の対応が可能となっている。当日の子どもの活動や環境をありのままに案内し、「異年齢交流」「栽培を通じた食育」など園の特色を具体的に伝えている。また、子育て支援PT職員・管理職・栄養士が内容に応じて相談を受ける体制により、専門性を活かしたきめ細かなサポートが行われている。</p> <p>保護者や利用希望者の多様なニーズに応えるために、個別対応が徹底されている</p> <p>区ホームページのみならず、児童館・図書館等へのポスター掲示を継続的に行い、保育所をまだ検討段階にある家庭に対しても自然に情報が届く仕組みが出来ている。育児応援券や緊急一時保育など行政サービスとの連携情報を併せて掲示することにより、「保育所に行けば関連制度も分かる」という安心感を醸成している。外国籍の保護者に対しては多言語版重要事項説明書を整備し、必要に応じてポケットトークを用いた双方向のコミュニケーションを実施しているほか、日本語資料にはルビを振るなど読みやすさにも配慮が見られる。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>新入園児オリエンテーションで基本的ルールや重要事項を説明している 入園決定者には、事前に調査表や重要事項説明書などの書類を配布し、家庭で内容を確認のうえ記入してもらっている。新入園児オリエンテーションは土曜日に実施し、重要事項説明書に基づいて基本的ルールや園生活に必要な内容を説明している。家庭で記入された調査票をもとに、保育士・栄養士・園長が生育歴、健康状態、食事、アレルギー、就労状況などの個別情報を確認し、保護者の意向や質問にも丁寧に対応し記録している。重要事項説明書及び個人情報の利用目的に関する同意書には、保護者の署名をいただき、同意を得ている。</p> <p>保育開始直後の子どもの不安が軽減されるように配慮した保育が行われている 新入園児面談で得た調査票や個別情報の記録は、新入園児報告として職員会議やクラス会議で確認・共有している。入園初日は親子で食事までの時間を共に過ごし、園の雰囲気を感じてもらう機会としている。2日目以降は、子どもの様子や保護者の状況に寄り添いながら、保育時間を少しずつ延ばす慣れ保育を実施している。1・2歳児クラスでは担当制を取り入れ、同じ保育士が受け入れを行うことで、安心して過ごせるよう信頼関係を築いている。送迎時の対話や連絡帳を通じて日中の様子を丁寧に伝え、家庭と連携しながら新しい環境への適応を支えている。</p> <p>サービス終了時には新しい生活に向け継続した支援を行っている 退園・転園児には園からお別れのメッセージカードを渡している。区立園への転園に際しては、保護者の同意がある場合に児童票や健康カードを送付し、必要な情報の申し送りを行っている。小学校への接続支援としては、交流会や学校体験への参加を通じて就学への意識を育んでいる。3月には、就学先の小学校へ子どもの育ちを記載した保育所児童保育要録を作成し送付している。保幼小地区連携協議会では、教員と一人一人の子どもの引き継ぎを行っている。配慮や支援が必要な児については保護者の同意のもと就学支援シートを作成し引き継ぎを行っている</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの心身の状況や生活状況は統一した書式に記録し把握されている</p> <p>子どもの個別情報は児童票、健康カード、登園カード、連絡帳、出席簿、保育日誌、遅早表などの統一書式に記録し把握している。保護者のニーズは連絡帳、送迎時の会話、面談、保護者会、アンケート等から収集し、記録の上職員会議で共有・検討している。1・2歳児の個別指導計画は月単位で作成し、月末に振り返り次月の計画に反映している。また児童票には1・2歳児は発達記録の月齢に応じて確認・記録し3～5歳児は期ごとに記録・振り返りを行っている。配慮児には個別支援計画を立て、年間目標と期ごとにねらい・成果を確認している。</p> <p>全体的な計画を踏まえ指導計画が作成され保育の充実が図られている</p> <p>区の全体的な計画は、養護と教育の各五領域を踏まえて作成している。これを基に「こころを育てる大田の保育」を参考にし、年齢別の年間指導計画を作成した上で、月案・週案を立てて日々の保育を展開している。計画は週・月・期ごとに評価・見直しを行い、子どもの姿を視点に保育内容を振り返り、次の保育に反映している。年度初めの保護者会では、年間指導計画やクラスの取り組み、遊びや生活の様子をパワーポイントで説明している。月のねらいは掲示板で周知し、日々の保育や行事の様子は壁新聞やドキュメンテーションで伝えている。</p> <p>子どもに関する必要な情報を確実に記録し職員間で共有化している</p> <p>子どもの様子や情報は、個別日誌・連絡帳・面談記録・日誌の特記事項欄・指導計画・児童票等に記録している。保育日誌には活動の様子や子どもの姿、保育士の関わりや配慮、気づきや評価を具体的に記録し振り返っている。記録類は鍵付き書庫に保管し、安全対策を講じた上で職員が閲覧できるようにしている。月案の振り返りでは、各クラスが「子どもを見る5つのポイント」の書式を用いて報告し、語り合いながら子ども理解を深めている。子どもや保護者に変化があった場合は、遅早表や朝礼ノートに記録し、朝礼や職員会議で申し送りし共有している。</p>		

サブカテゴリ5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ5の講評		
<p>個人情報の取り扱いについて保護者に説明し同意を得ている</p> <p>子どもの個人情報は、法令及び区の個人情報保護条例に基づき適切に管理している。入園時にはプライバシーポリシーと利用目的を保護者に説明し、同意書への署名を得ている。プール遊びでは遮光ネットを設置し、外部からの視線を遮っている。着替えにはラップタオルを使用し、手順を示して全裸にならないよう配慮している。おむつ替えはパーテーション内で行い、3歳児以上の身体測定は男女別で実施している。トイレには男女別の便座やパーテーション、半ドアの個室を設け、子どもが安心して過ごせる環境を整えている。</p> <p>子どもの人権を尊重した保育に努めている</p> <p>年度初めの職員会では、保育士の心得や姿勢とともに「私たちの園のこども達の権利」について確認している。年間指導計画の作成時には、クラスごとに大切にしたい子どもの権利を明示し、話し合いを通じて共通認識を深めている。園内研修では「子ども一人一人を大切に保育」をテーマに継続的に学び合い、職員同士で関わり方を考えている。子どもの視点から保育を振り返り、クラス保育や一人一人の子ども理解につなげている。クラスの枠を越えて互いを認め合いながら保育を考える体制は、不適切保育の防止や保育の質の向上につながっている。</p> <p>虐待防止マニュアルを基本として虐待の早期発見、防止に努めている</p> <p>日頃より、虐待防止マニュアルや区立保育園の運営の手引きを閲覧可能な状態にしている。虐待の早期発見及び防止のため、欠席が続く子どもや家庭内での怪我に注意を払い、送迎時の保護者との会話や子どもの様子など、気になる事柄については園長・副園長に報告し、継続的な観察と記録を行っている。これらの情報は職員会議にて共有し、全職員で認識を深めている。虐待の疑いがある場合や発見した場合には、速やかに園長へ報告し、保育サービス課や子ども家庭支援センター、児童相談所などの関係機関と連携して対応している。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>定期確認と日常の資料参照を通じて、確実な業務改善と保育サービスが向上している</p> <p>年度当初・末における確認作業の実施と重要事項説明書の見直しは、業務の現状把握と継続的な改善に繋がっている。さらに、日常業務の中で不明点が発生した際や、業務点検のために適宜手引書等を参照する体制が整っており、利用頻度の高い資料については分かりやすくまとめられている。手引書やマニュアルの整理・共有、定期的な点検及び、見直しの実施、そして職員間の連携による現場の把握と改善活動が、一体となって保育サービスの質の向上に大きく寄与している。今後も、引き続き業務の標準化と普遍化に努めていかれることを期待している。</p> <p>区共通マニュアルの更新と職員・保護者の声を反映しながら業務水準を磨き上げている</p> <p>当園では大田区共通マニュアルの改訂に合わせて自園マニュアルを更新しつつ、年度初め・年度末に定期点検を組み込む二重の仕組みにより、実施手順の陳腐化防止を図っている。さらに看護師・栄養士・調理師など多職種がPT行動計画を軸に専門的視点で助言する体制も整備されている。保護者会や行事終了後には感想を集約し、次年度計画に反映させるとともに、子どもの姿やエピソードをクラス打合せやリーダー会で共有しながら保育計画を修正している。特にエピソード記録を基にした改善は子どもの実態を的確に捉え、保育内容の質向上につなげている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>一人一人の全体的な姿を把握し子どもが主体的に遊べる環境を工夫している</p> <p>子ども一人一人の全体的な姿は、新入園児面談や児童調査票、各調査票(生育歴・健康状態・生活状況など)、発達記録、個別日誌、指導計画の振り返りなどを通して把握している。連絡帳や送迎時の会話、個人面談の情報も保育に反映している。各クラスでは、発達や興味に応じた玩具を手の届く位置に配置し、子どもの目線に合わせた棚やコーナーづくりなど環境を工夫している。園庭では雑草を植えて虫探しができるようにしたり、香りのある草花に触れるなど、興味を引き出す働きかけを通して主体的な遊びが広がるよう環境を構成している。</p> <p>互いを認め合い尊重する心が育つように援助している</p> <p>職員は子どもの人権の尊重について話し合い、国籍や容姿、言葉の違いがあっても互いを認め合えるよう関わっている。日々の職員の姿勢や関わりを通して、子ども同士も自然に受け入れ合いながら関係を築いている。3～5歳児は異年齢でグループを構成し、散歩や遊び、活動を共に行う異年齢交流を実施している。互いを思いやる気持ちが育ち、自分たちで考え主体的に活動する経験につながっている。支援を必要とする子どもには絵カードや文字の活用、個別支援を行い、他の子どもと共に過ごす中で共に成長できるよう配慮している。</p> <p>就学に向け小学校との円滑な接続ができるように支援している</p> <p>小学校への円滑な接続に向けて、保幼小連携事業の合同研修や地域連携協議会に参加し、保育園と小学校間で相互理解と情報交換を行っている。5歳児は学校体験や交流会に参加し、学習発表会の鑑賞やお店屋さんごっこを通して就学への期待感を高めている。年長児の年度末には学校まで散歩に出かける経験を取り入れ、1月からは午睡をなくしていくことで生活リズムの支援を行っている。3月には保育所児童保育要録や就学支援シートを小学校へ送付し、地域連携協議会では個々の子どもについて口頭で申し送りをを行い、円滑な接続を図っている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時には子どもの情報を保護者と共有し確認している</p> <p>受け入れ時には、1・2歳児は連絡帳、3～5歳児は登園カードを受け取りながら、健康状態や睡眠、食事、家庭での様子などを保護者と確認している。得られた情報は各クラスの遅早表に記入し、職員間で共有しているほか、事務所や調理室には口頭で伝達している。全職員に周知が必要な内容は朝礼ノートを活用している。降園時には、連絡帳や3～5歳児はクラスの週案掲示を通して一日の様子を伝え、口頭でも一人一人の状況や姿を保護者に丁寧に伝えている。活動内容によっては、ドキュメンテーションや壁新聞の掲示も行っている。</p> <p>発達段階に応じて基本的な生活習慣が身につくように援助している</p> <p>基本的な生活習慣の習得に向けて、年間指導計画や健康・食育計画をもとに、子どもの発達年齢に応じた援助や声掛け、見守りを行っている。食事・排泄・着脱などの場面では、絵本や紙芝居、イラストの掲示、実演などを通して子どもの興味関心を引き出し、子どもが自ら取り組めるよう工夫している。おむつからパンツへの移行や食具の使い方、手洗いの手順なども、保育者が寄り添いながら丁寧に支援している。保護者とは日々の連絡帳や会話、個人面談などを通じて発達状況を共有し、園と家庭が協力して基本的な生活習慣の定着を図っている。</p> <p>休息(午睡)は子どもの状況に合わせて取れるように配慮している</p> <p>午睡は連絡帳や登園カードから得た子どもの状況を把握し発達年齢に応じて入眠時間や睡眠時間を調整している。必要に応じて午前寝や休息ができるようにしている。午睡時は必ずストレッチを行い、うつぶせ寝にしないよう乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防を行っている。5歳児(年長児)は就学に向け12月から活動時間を延ばし入眠時間を遅くして徐々に午睡をなくす取り組みを進めている。午睡がなくなることで疲れや体調面への配慮が必要となるため、横になって休息できるスペースの工夫も行っている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが主体的に遊びや活動ができる環境を整えている</p> <p>各保育室では、子どもの発達や興味・関心に応じた遊具や絵本、素材などをそろえ、自由に選んで遊べる環境を整えている。積み木やブロック、手先を使った玩具、ままごとや人形、絵本などを玩具棚に配置し、遊びたいものがすぐ手に届くようコーナーを工夫している。積み木やブロック、制作などは「つづき」として残り、満足するまで継続して遊べるよう配慮している。4・5歳児が遠足で水族館を訪れた経験から興味を持ち、5歳児が主体的に魚や海について調べ、水族館づくりの活動へと発展していた。</p> <p>言葉に対する感覚を養い様々な表現を楽しめるように配慮している</p> <p>子どもの思いは言葉だけでなく、しぐさや表情、身振り、視線などから読み取り、応答的な関わりを大切にしている。保育士が言葉にして返したり代弁したりすることで、発語を促し理解につなげている。子ども同士の伝え合いを支える仲立ちも行い、思いを先取りしすぎず、まずは耳を傾けることを心掛けている。絵本や歌、ひらがな献立や掲示された文字などを通して言葉への関心を高め、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しんでいる。運動遊びや様々な素材、廃材を使った造形遊び、リズム遊びなど多様な表現活動も取り入れ、感性や意欲を育てている。</p> <p>戸外遊びを通して季節の移りわりを感じられるようにしている</p> <p>散歩や戸外遊びを通して季節を感じながら自然に触れる機会を取り入れている。目的やねらいに応じて園外活動を行い、お散歩マップも作成している。園庭には桜やイチヨウの木々、季節の草花、夏野菜の栽培、草むらでの虫探しなどがあり、砂・水・泥の感触を楽しみながら自然物に触れて遊べる環境が整っている。公園や多摩川の土手では、季節の移りわりを感じながら虫などの生物に触れたり、体を動かしてのびのびと遊んでいる。社会や集団生活、公共施設などで安全に楽しく過ごすための「きまり・ルール」の大切さも知らせている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの発達や興味や関心に合わせた行事を実施している</p> <p>園行事は季節に合わせて、節分、ひな祭り、子どもの日、七夕、お月見など日本の伝統行事を文化の伝承として実施している。各年齢に応じて由来を知らせながら、楽しめるよう工夫している。行事の目的やねらいを職員間で話し合い、子どもにどのような経験をさせたいかを共有した上で計画・実施している。運動会やお楽しみ会では、子どもの発達や興味に合わせた内容を取り入れ、当日までの取り組みや終了後の余韻が遊びにつながっている。子どもの様子は写真掲示やクラスだよりで保護者に伝え、期待感や余韻を子どもと共有できるようにしている。</p> <p>皆で協力し達成感を味わえる喜びを感じられるような行事を実施している</p> <p>運動会やおたのしみ会(発表会)では、子どもが自分の目標を立てて取り組み、仲間と意見やアイデアを出し合いながら協力して一つのものを作り上げる経験をしている。楽しく発表できたことで、友だちと共に達成感を味わい、成長を感じることができている。行事に向けた取り組みでは、当日の結果だけでなく、それまでの過程を大切に、子どもの姿を保護者に丁寧に伝えている。一人一人の頑張りを認め、気持ちに寄り添うことで、子どもが自分に自信を持ち、意欲的に取り組めるような関わりを心がけている。</p> <p>年間行事予定表やお便りを配布し保護者の理解を得られるようにしている</p> <p>年度当初に年間行事予定表を配付し、保護者に参加や協力をお願いしている。行事を通して子どもの姿や育ち、保育のねらいを保護者と共有できるよう、取り組みの過程や子どもの様子を運動会だよりやクラスだより、送迎時の会話、ドキュメンテーションなどを通じて丁寧に伝えている。また、取り組みの中で制作した作品を展示したり、見どころを知らせたりすることで、保護者の理解と協力を得られるよう努めている。行事後はアンケートの意見を参考にしながら行事のあり方や目的を職員間で話し合い、次の計画に活かしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の子どもが安心して過ごせるように環境に配慮している</p> <p>長時間保育を利用する子どもが安心して過ごせるよう、1・2歳児のクラスではマットを敷くなど、家庭的な雰囲気を感ぜられる環境づくりに努めている。子どもが自分の好きな遊びに取り組めるよう環境を整え、保育士と一緒に遊びながら不安や寂しさに寄り添う保育を行っている。特に延長保育の時間帯には、一人一人の子どもに要求に応じて抱っこやスキンシップを通して、ゆったりと関わるよう配慮している。延長保育中の子どもの様子は、玄関に掲示してある各クラスの当番職員が保護者に丁寧に伝えている。</p> <p>延長保育になる保育室はいつも同じ部屋で安心して過ごせるようにしている</p> <p>夕保育は16時45分から18時15分まで、1・2歳児は1歳児保育室で合同保育を行い、5歳児は4歳児室と3歳児室に分かれて過ごしている。延長保育(18時15分から19時15分)は、5歳児保育室にて1～5歳児の合同保育を実施している。保育室の移動があっても、保育士は子どもの様子を丁寧に把握し、遊びのきっかけを作ったり一緒に遊んだりしている。各クラスの玩具に加え、延長保育専用の遊具も用意し、子どもが好きな遊びを楽しめるよう工夫している。延長保育時は1・2歳児はマットやござを使用し、安全に遊べる環境を整えている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いて楽しく食事がとれるように配慮している</p> <p>大田区共通の献立を使用し、旬の食材や郷土料理、特産物、各国の料理などを取り入れている。だしを丁寧にとり、素材の味を生かした味付けをしている。いつも同じ場所や自分の座席を固定し、必要に応じて足置きや背あてを用意するなど、子どもが落ち着いて食事できる環境を整えている。苦手なものは無理強いせず、保育士や友だちとの食事を通して少しずつ食べられるようにしている。季節の献立や日本の伝統を取り入れた行事食では、盛り付けに工夫を凝らし、BGMやランチョンマットなどを活用して楽しい雰囲気づくりをしている。</p> <p>食物アレルギーや文化の違いに応じた食事の対応を行い誤食のないように努めている</p> <p>食物アレルギーのある子どもには、大田区のアレルギー対応ガイドラインに沿って給食を提供している。医師が記入した生活管理指導表を提出してもらい、保護者と面談を行った上で完全除去食で対応している。除去食や宗教食の対応時には確認簿を使用し、誤食がないよう確認している。提供時には専用トレイ、名前、顔写真、除去食材を明記したプレートを添え、調理室と担任、担任同士によるダブルチェック体制で誤食防止に努めている。1歳児クラスの年度当初は、発達や家庭での食事形態に応じて小さく切る、軟らかくするなどの配慮を行っている。</p> <p>年間食育計画に基づき食育活動を行い、子どもが食への関心を高められるようにしている</p> <p>年間食育計画に基づき、年齢や発達に応じた食育活動を展開している。栽培活動ではキュウリ、ピーマン、ナス、枝豆、オクラなどを育て、成長や収穫、調理・試食の体験を通して食への関心を高めている。オクラのスタンプ遊びや、そら豆のさやとり、玉ねぎの皮むき、おにぎり、ピザづくりなどの調理保育も行っている。栄養士や調理員による紙芝居やパペットを使った食育活動やレシビの配布、降園時に給食サンプルケースでの献立や旬の食材の展示を通して、親子で見たり、触れたりして、楽しみや関心を共有できる環境を整えている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全に関心を持てるよう、看護師による保健活動を通して支援している</p> <p>子どもが自らの健康や安全に関心を持ち、心身の健康を維持できるよう、安全計画や保健計画に基づき保育・健康教育・保健指導を行っている。各年齢に応じた計画を立て、保育では戸外遊びや運動遊びを積極的に取り入れ、体力や運動機能の向上とともに危機回避能力が育つよう働きかけている。看護師による健康教育・保健指導では、手洗いや鼻のかみ方、咳エチケットなどを年齢に応じてわかりやすく(イラスト等も活用して)伝え、感染症予防に向けた衛生習慣の定着を図っている。活動後は壁新聞などで保護者に周知している。</p> <p>子どもの健康は、嘱託医や専門機関と連携し継続的に支援している</p> <p>子どもの健康状態を把握するため、担任や看護師による日々の視診に加え、嘱託医による年2回の健康診断・歯科健診、毎月の身体測定を実施し、健康カードに記録して保護者に周知している。発熱や怪我、食物アレルギーなどの対応時には、医療機関リストを活用し、専門機関と連携している。熱性けいれんやアレルギーなど健康面に配慮が必要な子どもについては一覧表を作成し、職員間で共有している。緊急時には職員が誰でも対応できるよう、各保育室に緊急対応ファイルを設置している。与薬は医師の指示書や保護者の同意書に基づき適切に対応している。</p> <p>SIDSの予防に努め、感染症発生時には保護者に迅速に周知している。</p> <p>感染症対策や病後の保育については、新入園児オリエンテーションや保護者会で説明を行い、発症時の対応や予防接種の啓発に努めている。感染症が発生した際には、保育アプリでの配信や園内掲示を通じて保護者に迅速に知らせ、注意喚起を行い、早期発見・早期対応に努めている。登園時には保育室入室前に手洗いを促し、衛生習慣の定着を図っている。乳幼児突然死症候群への対策として午睡チェックを実施し、1・2歳児は10分ごと、3～5歳児は30分ごとに保育士が呼吸・体位・顔色を確認し記録するとともに、仰向け寝の徹底を図っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者の就労や子育てを支えるため個々の事情に配慮した支援を行っている</p> <p>入園前の面接では、子どもの様子や家庭・就労状況を丁寧に聞き取り、保護者に寄り添った支援を行っている。状況に変化があった場合は園長や副園長が窓口となり、柔軟に対応している。保育時間の変更や必要事項は児童調査表に記載し、職員間で朝礼や会議を通じて共有している。急な残業による延長保育や予定外のお迎えにも柔軟に対応している。子どもの発達や育てにくさに関する悩みや不安を把握した場合には、必要に応じて巡回相談や保健師相談、子ども家庭支援センターにつながるよう支援している。</p> <p>保護者同士のつながりと信頼関係を育んでいる</p> <p>保護者同士が交流できる機会として、保護者会や保育参加などで意見を交わす場を設けている。年2回の保護者会では、園の目標や保育の方針、子どもの様子や成長について話した後、気軽に話せる雰囲気づくりに配慮し、保護者同士の懇談の時間を設けている。子育てが楽しく感じられるようなテーマを工夫し、日頃の悩みや育児の思いを共有できる機会となっている。連絡帳や送迎時のやり取り、保護者会や保育参観、個人面談などを通して、一人一人の子どもの成長を保護者と共有し、信頼関係の構築に努めている。</p> <p>保護者と発達や育児への理解を深めることで保護者の養育力向上に努めている</p> <p>新入園児オリエンテーションや保護者会では、パワーポイントを活用しながら園の方針や保育で大切にしていること、1歳から5歳児までの成長発達のつながりを捉えて伝えている。クラスだよりでは、子どもの姿やエピソードを通して成長や発達の様子を共有している。保育参観・参加・個人面談・行事などの保護者参加では、子どもの発達や成長の姿、職員の関わり方を見たり体験したりすることで、子どもへの理解を深め、保護者の養育力向上につなげている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>地域資源を活用し様々な体験や交流が行われ子どもの生活の幅を広げている</p> <p>本園は区営アパートの1階部分に位置し、日当たりのよい園舎と広々とした園庭を備えている。近隣には公園、多摩川土手、図書館、児童館、保育園、小学校などがあり、目的に応じてお散歩マップを活用して戶外活動を楽しんでいる。5歳児は毎月図書館を訪れ、本の貸し借りを体験しているほか、高齢者施設のミニコンサートへの参加や児童館の縁日に参加しお買い物ごっこも楽しんだ。起震車体験や警察署による交通安全教室、小学校との交流会や近隣園との交流など、地域資源を活用した多様な体験を通して、子どもの生活の幅を広げている。</p> <p>子どもが職員以外の人と交流できる様々な機会を設けている</p> <p>地域の子育て支援として、地域の在宅子育て家庭の親子を対象に「わくわくいずも」を実施し遊びの提供や相談などを行っている。育児応援券を活用し、保育園体験を通じて同年齢の子どもと遊ぶ機会を設けている。中学生の職場体験や保育実習生の受け入れでは、子どもが年上の人と関わりながら、優しく接してもらった経験を積んでいる。また、近隣保育園の5歳児との交流や小学校との交流、児童館の縁日や図書館のお話会への参加など、職員以外の人との関わりを通して地域を知り、公共のマナーやルールを学びながら、子どもの社会性を育んでいる。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	当園は理念の浸透、意思決定の透明性、組織体の一体感と信頼性の高い運営を行っている	
内容①	当園は、理念や目標を全職員と共有し、それを保育実践や組織運営の基盤として着実に機能させている。理念は掲示や説明にとどまらず、年度当初の会議や個別面談を通じて、一人一人の職員が「自分の使命」として捉える仕組みが確立されている。さらに、全体的な計画や重要事項説明書に理念・方針を明記し、職員室や電子媒体で常時確認できる環境を整えることで、判断に迷った際に即座に立ち返ることが可能となっている。このように理念を意思決定や行動の拠り所とし、実際の運営に結び付けている点は高く評価される。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル②	保護者や地域との協働を重視し、子どもが安心して園生活に移行できるよう支援している	
内容②	保護者や地域との協働に積極的に取り組み、アンケートや日常的な対話を通じて得られた意見を速やかに園運営に反映している。公開保育や地域向けの事業を通じて近隣の保育施設や入園前保護者の声を収集し、保育の改善に結び付けていることは、地域に開かれた園運営の好事例である。新入園児の受け入れにおいても、オリエンテーションや段階的な慣れ保育を実施し、保護者と連携しながら子どもが安心して園生活に移行できるよう丁寧な支援が行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	主体的な遊びを支える環境と子どもの視点に立った振り返りや職員の対話を通して保育の質を高めている
	内容	子どもが主体的に遊びや生活ができる環境づくりを目指し、室内では発達や興味・関心に応じた遊具や絵本、素材をそろえ、自ら選び遊び込めるコーナーづくりを工夫している。園庭では雑草を植えて虫探しができるようにし、花を摘んでままごとや色だし遊びができる花壇、泥遊び用のバケツなどを用意し、「やってみたい」が広がる環境を整えている。子どもの立場に立った視点で共通のポイントに沿って職員同士が語り合い、考えを深める保育の振り返りは、子どもへの理解の深まりや、職員の主体的な連携につながるなど、保育の質を高めている。
2	タイトル	異年齢交流の中で、子ども同士が自然に関わり合い、思いやりや敬う気持ちを育みながら園生活を楽しんでいる。
	内容	園庭ではクラスごとの使用日を設けず、1～5歳児と一緒に遊べる環境を整えている。年上の子の遊びをまねたり、年下の子に優しく教えたり手伝ったりする姿が見られ、自然な関わりの中で接し方や遊びのルールを身につけている。3・4・5歳児は異年齢でグループを構成し、毎月「なかよし会」で交流を行っている。共に遊びや散歩、活動に取り組む中で親しみや仲間意識が育ち、思いやりや憧れの気持ちにつながると共に、自分たちで考え主体的な活動へと発展している。
3	タイトル	地域交流や地域の子育て支援事業を通して地域に根差した保育園の役割を果たしている
	内容	小学校体験や児童館の行事、図書館のお話会、老人いこいの家のミニコンサートなどに参加し地域との交流を深めている。交通安全教室、起震車体験では近隣の保育施設を招き、体験後には一緒に遊ぶ機会も設けている。公開保育や近隣園の職員交流を図り、地域の保育の向上に努めている。子育て支援として「わくわくいずも」を開催し、遊びの提供や身体計測、育児相談を実施し、見学会や育児応援券の利用、給食の試食、園庭開放を通じて在宅子育て家庭に安心して遊べる場を提供している。地域に根差した保育園としての役割を担っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者への情報提供と多様化対応の体系的強化に向けた課題抽出と実践のさらなる一体化が期待される
	内容	多面的な情報発信によりアクセス性向上と利用希望者に対する説明体制を構築し、多言語対応や見学時の具体的活動紹介など個別対応が整っている。これらの対策は高い評価を得るものの、ニーズ把握の分析結果や改善計画に対する見える化、及び数値的根拠の掘り下げが薄い。情報連携と体制作りが言及されているものの、質的・量的データを活用した改善プロセスと保護者・地域からのフィードバックを体系的に活かしながら運用するための明確な方策検討に期待したい。
2	タイトル	園庭環境改善の継続運営における課題認識と計画的深化の必要性について言及されたい
	内容	園庭整備を月単位の目標に据え、環境PTの主導による前準備と役割分担で協働的に取り組み、時間管理やリーダーシップにより短時間で効率的に整備を行っている。また、成功の実績が報告されているが、環境整備の質的評価や子どもの体験に基づく改善点への言及が薄く、更なる現状分析に期待したい。ルールブック改定など前向きな方向性が示されているが、具体的な質的指標の設定や子ども主体の視点を反映した環境整備計画の戦略的展開が求められる。
3	タイトル	人権理解を目的とした職員研修活動の成果と今後の方向性について、さらなる深化が期待される
	内容	人権理解を深める課題設定が明確で、多回数の園内研修を通して職員間の対話を促進し、企画・進行の工夫が共有され、リーダー主導で合意形成を図っている。目標を達成したことは大きな成果であるが、具体的な実践や保育現場での定着に対する取組がやや不足している。職員研修活動のさらなる深化に向けて、より実践的なフォローアップや成果の質的評価まで踏み込むと全体の完成度が格段に向上すると思われる。